

二〇二〇年度 総合学力評価テスト 読解表現総合

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

1. 問題冊子は監督者かんとくしゃの指示があるまでは開いてはいけません。
2. 監督者の指示にしたがって、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。問題冊子は受験番号のみを記入してください。
3. 試験問題の内容に関する質問には答えられません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
4. 受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てください。
5. 解答用紙は持ち帰らないでください。
6. 漢字で書くべきところは漢字で書いてください。

受験番号

次の文章を読んであとの問いに答えなさい。

人は、常に沢山たきんの人に会って①いる。出会っているという感覚はたぶんない。すれ違っただけとか、ちょっと頭を下げただけとか、言葉を交わしたとしても、その場限りのことだったりとか、その程度では「出会い」とは普通ふつうはいわない。しかし、そういった機会から、なんとなく顔見知りになり、もう少し近づいていく。お互いたがに近づこうとするから、自然に知合いしりあや友人になる。

これは、友達だけではない。学校の先生のように、別のところで決定して、強制される出会いもあるけれど、それでも、自分に合うかどうかで、親密さは変わってくる。ある学年の先生とは仲良くなれなかつたけれど、次の年の先生とは、おしゃべりをするようになったとか。

人と出会って、そういった人間関係を築くかどうかは、個人の感覚というか、フィーリングである。自分に合った人、自分に有益になりそうな人を選ぶ。面白おもしろそうだと、楽しそうだと、いっしょに遊べそうだと、この人なら守ってくれる、この人なら長時間いっしょ一緒にいられる、といった小さな判断を、あなたが「自分で」しているということなのである。

だから、これとまったく同じように、あなたが自分で本を選ぶ、というのが最も基本的なやり方だ、と僕は思う。

そんな当たり前のこと、と感じるかもしれないけれど、否*2、その当たり前が、なかなか実現できないのではないだろうか。特に、ネットが発展した現代では、「私が読みたい本を教えてください」といった質問が某知恵袋*3に散見されるように、皆さん*4、迷える読者になっているのである。

本の選び方として、僕が指摘しってきしたいのはその一点だけ。とにかく、本は自分で選べ。それだけだ。

リアル書店でも良いし、ネット書店でも良い。とにかく、面白おもしろそうなお本がないかな、と選ぶ時間が大切だということもある。人から聞いたから読むとか、誰かがすすめていたから読むとかではなく、自分の判断で選ぶこと。これがもの凄すごく重要なのだ。もう、本書のテーマはこの一点だと思っただけだ。もかまわない。

これについては、エッセイでも書いたことがある。②写真の撮り方に類似しているとも書いた。カメラは今ではデジタルになって、あとで修整もできるし、誰でも簡単に写真が撮れるようになった。しかし、重要なことは、どこを撮るか、何を撮るか、という「着眼」なのである。ここを撮りなさい、あれをここから撮りなさい、と言われて撮っていたら、もうあなたの写真ではなくなる。あなたは機械になったといっても良い。これと同様に、人から言われて本を読むのでは、見せられたもの、読まれたものになる。見たもの、読んだものではない、ということなのだ。

本は自分で選べ、というだけのことをくどくどと書いてあるわけだが、本当にこれが一番大切なことだ、と僕は考えている。

たとえば、子供に対してでもそうだと。子供に本を選ばせる方が良い。幼稚園児ようちえんじになるくらいの年齢なら、つまり、言葉がしゃべれるようになったら、自分で選べる。絶対に大人が「これが面白そうだよ」などと言っただけではいけない。自分で選ぶことが、本を読むことの大部分の意義だといって良い。

さて、その次に大事なことは、その本を手に入れるために、自分の金を出すことである。これは、金を自分で稼かせぐようにならないと無意味かもしれない。

いが、子供のお小遣いも擬似的な給料のようなものだから、だいたい、子供の場合も同様である（ただ、幼稚園児では適用外だろう）。

自分で稼いだのなら、金の価値がわかっているはずだ。どれくらい時間、どの程度の労力でそれが得られるのか、それが「価値」の意味でもある。だから、それと交換して本を手に入れるということは、それだけ自分の持っているものを犠牲にする行為だから、さきほど書いた「自分で選ぶ」という点において真剣さが違ってくる。

本を選ぶことが、読書の大半の価値だと書いたが、金を出して交換しようと決意した瞬間が、その焦点となる。まさに真剣勝負といっても過言ではないだろう。

（森 博嗣『読書の価値』（NHK出版新書）より）

- * 1 フィーリング……気分。心地。
- * 2 否……いや、そうではない。
- * 3 某知恵袋……「某」は何かに限定しない。「知恵袋」はインターネット上で質問をするサイト。
- * 4 散見……あちらこちらにちらほらと見えること。

(1) — 線部①「常に沢山の人に出会っている」とあるが、人との出会いの例はどのような内容を表わすためのものですか。最も適したものを次の中から一つ選び、記号で答えましょう。

- 1 沢山の人との出会いがあるが、それはすれ違ったりその場限りのこともふくまれているということ。
- 2 強制される出会いでも自然に知り合いになる出会いでも親密さは自分の判断で変わっていくということ。
- 3 出会ったときは頭を下げる程度の関係も時間がたつと自然と知り合いや友人になっていくということ。
- 4 これほど沢山の出会いの中で知り合いや友人になっていくのはとても貴重なできごとであるということ。

(2) — 線部②「写真の撮り方に類似している」とあるが、類似している内容を六十字以内で説明しましょう。

- (3) この文章には本を選ぶことの大切さが書かれています。そこで、自分で本を選んだ体験をふまえて、あなたの本の選び方、読書の経験から得たことを書きましょう。(読書には雑誌やマンガはふくまないものとします。)

※次の内容ときまりにしたがって四百字以上五百字以内で書きましょう。

《内容》

- 1 あなたが本を選ぶときに何を大切にしているか、具体的に書くこと。
- 2 その本を手に入れたり、読んでどのようなことを感じたかを書くこと。
- 3 あなたにとって読書とはどのような意味があるものかを書くこと。

《きまり》

- 1 題名は書きません。最初の行から書き始めます。
- 2 各段落の最初の字は一字下げて書きます。
- 3 段落を変えたときの残りのマス目は字数として数えます。
- 4 「、」や「。」や「。」や「。」なども一字に数えます。ただし、「。」と終わりのかっこは同じマスに書き、一字と数えます。
- 5 最後の段落の残りのマス目は字数として数えません。

